

文教厚生常任委員会活動レポート

開催日：令和7年10月28日(火)

開催場所：1・2号委員会室

町立病院

1. 町立病院の管理運営について

令和7年度9月末現在の入院患者数は1日平均111.4人、病床利用率は64.4%で前年実績・予算も上回っています。外来患者数は1日平均638.1人で前年実績とほぼ同水準ですが、予算は上回っています。診療収入は入院・外来で2億8468万9千円で、前年実績・予算も上回っていて、堅調に推移しているとの説明がありました。

【主な質疑】

委員：新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンの接種状況は？

担当：新型コロナワクチンは昨年ほどの接種実績はなく低調で、10月開始から20件程度です。インフルエンザワクチン接種は例年どおりのペースで、10月開始から20件/日ほどです。

委員：いつでも接種への対応を？接種は火曜日の朝に電話で確認できますか？

担当：定期通院者は10/1から受診日に申し出ていただければ、当日接種が可能で例年通りです。一般接種日は毎週火曜日に50人限定の予約制です。予約は主にWebで行いインターネット環境がない方は、10月中は専用ダイヤルで月曜日と水曜日の2時から3時で受付をしています。

町民生活部

1. 健康づくり推進事業について（北海道医療大学との包括的連携協定について）

本年度、中標津町は北海道医療大学と包括的連携協定を締結し、地域の心の健康づくりを目的とした事業を実施します。

11月15日には、同大学の心理科学部長であり公認心理士の富家直明氏を講師に「ゲートキーパー養成講座」と「生きるを支える自殺予防講演会」を開催します。講座では自殺のサインに気づき支援につなぐゲートキーパーを養成し、講演会では「支え合おうこころといのち」～大切な人に寄り添うために～を演題として実施して開催するとの報告がありました。

2. 住民生活・環境衛生事業について

(根室北部広域ごみ処理施設の施設整備方針について)

根室北部広域ごみ処理施設は現在稼働18年目を迎え、その後のあり方について、詳細な検討が進められてきました。令和6年3月に策定された「施設整備検討報告書」で

は、流動床式焼却炉への変更と新設（24時間運転）の2案が総合的に望ましいと結論づけられましたが、新設に伴う多大な初期投資を避けるため、既存施設を改造し延命化を図る方針を決定しました。延命化の具体的手法を検討するため複数の選択肢が精査され、最終的に流動床式焼却炉への変更を前提とした2案、溶融炉を撤去し流動床式焼却炉に変更する案と同様に変更しつつ焼却量を調整して能力を縮小する案が最終候補として比較されました。

この比較検討の結果、溶融炉を撤去し流動床式焼却炉に変更する案が最適と判断されましたが、最大の理由は財政負担を大きく軽減できることです。

本案を選択することで約4億円近くの財政負担を軽減できるという結論に至り、改造後は溶融炉の撤去や運転員体制の見直しにより、運転・維持管理費も減少される見込みです。

延命化工事は令和9年度後半から約3年間かけて実施される計画で、具体的には令和9年度後半から約1年間をかけて実施設計が行われた後、令和11年度から令和12年度にかけて溶融炉の撤去、二次燃焼室及び付帯設備の設置といった焼却炉形式の変更に伴う大規模な改修工事が行われる予定との説明がありました。

【主な質疑】

委員：施設整備案が決まるまでの全体スケジュールは？

担当：11月上旬までに各町において選定案の検証を行い、その後、広域連合の議会運営委員会で最終的に決定される予定です。

委員：当委員会では富良野市や恵庭市の先進地視察を行ってきましたが、中標津町も生ごみを肥料として再利用化を積極的に考えていくべきでは？

担当：過去にはコンポストや乾燥機を利用した取り組みも実施しましたが、現時点では十分な効果を得るには至っていません。今後15年間は広域連合の施設を最大限に活用していくことが最善と考えています。その中で、ごみのリサイクルについては、各町が連携して独自の取り組みを検討・推進していかなければと考えています。